



平成29年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成28年7月29日

上場会社名 東映アニメーション株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 4816 URL <http://www.toei-anim.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 高木 勝裕  
 問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役経営戦略部担当 (氏名) 吉谷 敏 (TEL) 03-5318-0639  
 四半期報告書提出予定日 平成28年8月12日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成29年3月期第1四半期の連結業績(平成28年4月1日～平成28年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年3月期第1四半期	9,154	14.4	1,791	11.8	1,897	7.2	1,555	44.9
28年3月期第1四半期	7,999	17.5	1,602	69.0	1,769	64.0	1,073	51.3

(注) 包括利益 29年3月期第1四半期 609百万円(△43.6%) 28年3月期第1四半期 1,080百万円(89.7%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
29年3月期第1四半期	114.03	—
28年3月期第1四半期	78.68	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
29年3月期第1四半期	55,952	44,681	79.9
28年3月期	56,404	45,367	80.4

(参考) 自己資本 29年3月期第1四半期 44,681百万円 28年3月期 45,367百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
28年3月期	—	0.00	—	95.00	95.00
29年3月期	—	—	—	—	—
29年3月期(予想)	—	0.00	—	30.00	30.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

28年3月期期末配当金の内訳 特別配当・記念配当65円を含んでおります。  
 29年3月期の配当金の予想値につきましては、当社の配当政策に基づき普通配当部分を記載しております。  
 29年3月期の期末配当金につきましては連結業績等を勘案したうえで、別途検討いたします。

3. 平成29年3月期の連結業績予想(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	16,700	△9.8	4,000	△21.3	4,200	△21.1	2,600	△26.6	190.59
通期	30,500	△9.3	5,700	△25.4	6,000	△25.0	3,800	△26.2	278.55

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
  - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
  - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
  - ④ 修正再表示 : 無

(注)詳細は、添付資料P.3「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項(1) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	29年3月期1Q	14,000,000株	28年3月期	14,000,000株
② 期末自己株式数	29年3月期1Q	357,937株	28年3月期	357,937株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	29年3月期1Q	13,642,063株	28年3月期1Q	13,642,063株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続が実施中です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社グループが本資料の発表日現在において入手可能な情報から得られた判断に基づいており、リスク及び不確実性を包含しております。業績予想の前提となる仮定及び業績予想のご利用に当たっての注意事項については、添付資料P.3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(2) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
(3) 利益配分に関する基本方針及び当期の配当	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	3
(1) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、個人消費の足踏みや企業の業況判断の慎重化等の弱さがみられるとともに、英国のEU離脱決定や米国の金融政策正常化の影響、中国やその他の新興国経済の先行きに対する懸念等、海外景気の下振れリスクも抱え推移しました。

当社グループを取り巻く事業環境におきましても、依然として少子化やテレビ用アニメーションの視聴率低下傾向、パッケージ市場の縮小、娯楽の多様化等により厳しい状況が続いておりますが、一方では劇場用アニメーションの活況、露出媒体としての映像配信サービスの拡大、中国をはじめとするアジア市場の伸張、CG表現の進化による映像事業の多様化等、アニメーションビジネスの成長機会が見込まれる分野も数多くあります。

こうしたなか、当社グループは、国内で「ワンピース」、「ドラゴンボール」シリーズ、「プリキュア」シリーズ、海外で「ドラゴンボール」シリーズ、「ワンピース」、「聖闘士星矢」シリーズを主とした、テレビ・映画・ブルーレイ・DVD・携帯端末・インターネット等への映像製作・販売事業や、キャラクターライセンス等の著作権事業、キャラクター商品の開発や販売等を行う商品販売事業、キャラクターショー等を行うその他事業を展開しました。

この結果、当第1四半期連結累計期間における売上高は91億54百万円（前年同期比14.4%増）、営業利益は17億91百万円（同11.8%増）、経常利益は18億97百万円（同7.2%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は15億55百万円（同44.9%増）となりました。

セグメントごとの業績は次のとおりであります（セグメント間取引金額を含む）。

なお、セグメント損益は、営業利益ベースの数値であります。

#### ①映像製作・販売事業

劇場アニメ部門では、3月に「デジモンアドベンチャーtri. 第2章」、「映画プリキュアオールスターズ みんなで歌う♪奇跡の魔法!」を公開しました。前年同期にあった『ドラゴンボールZ 復活の「F」』のヒットに相当するものがなかったことから、前年同期と比較して大幅な減収となりました。

テレビアニメ部門では、「美少女戦士セーラームーン Crystal」、「魔法つかいプリキュア!」、「ドラゴンボール超」、「ワンピース」の4作品を放映・配信しました。前年同期に比べ放映本数は減ったものの、ゲーム向け音声製作が好調に稼働したこと等から、大幅な増収となりました。

コンテンツ部門では、前年同期にあった「デジモンアドベンチャー」のブルーレイに相当するものがなかったこと等から、大幅な減収となりました。

海外映像部門では、複数作品の中国及び北米向けの映像配信権や『ドラゴンボールZ 復活の「F」』の劇場上映権の販売が好調に稼働したこと等から、大幅な増収となりました。

その他部門では、定額映像配信市場の拡大もあり、映像配信サービスは好調に稼働しましたが、ソーシャルゲーム『聖闘士星矢 ギャラクシーカードバトル』のサービス終了の影響が大きく、全体としては大幅な減収となりました。

この結果、売上高は29億26百万円（前年同期比3.0%増）、セグメント利益は4億99百万円（同21.4%増）となりました。

#### ②著作権事業

国内著作権部門では、アプリゲーム『ドラゴンボールZ ドッカンバトル』や「ワンピース」の商品化権の販売が好調に推移したものの、前年同期にあった複数作品の遊技機大口契約に相当するものがなかったことから、前年同期と比較して減収となりました。

海外著作権部門では、中国でゲーム化権の販売、全世界でアプリゲーム『ドラゴンボールZ ドッカンバトル』及び『ワンピーストレジャークルーズ』が好調に推移したこと等から、大幅な増収となりました。

この結果、売上高は41億57百万円（前年同期比12.3%増）、セグメント利益は17億96百万円（同10.2%増）となりました。

#### ③商品販売事業

商品販売部門では、「ONE PIECE FILM GOLD」の劇場公開に向けたタイアップ・販促関連商品の販売が好調だったことに加え、海外のイベント物販も好調に推移したことにより、前年同期と比較して大幅な増収となりました。

この結果、売上高は17億64百万円（前年同期比43.6%増）、セグメント利益は95百万円（前年同期は、18百万円のセグメント損失）となりました。

④その他事業

その他部門では、催事イベントやキャラクターショー等を展開しました。「ドラゴンボール」シリーズや「聖闘士星矢」シリーズの催事関連が好調に稼動したことから、大幅な増収となりました。

この結果、売上高は3億81百万円（前年同期比35.7%増）、セグメント利益は27百万円（同190.4%増）となりました。

(2) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成29年3月期の業績予想につきましては、現時点では平成28年5月12日付の決算短信で発表いたしました業績予想に変更はありません。

なお、実際の業績は、当社グループの事業を取り巻く経済環境、市場動向、為替レートの変動等の様々な要因により、記述されている業績見通しとは大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。

(3) 利益配分に関する基本方針及び当期の配当

当社は、株主の皆様の利益確保を重要な経営目標の一つと考えており、中長期的な事業計画に基づく積極的な事業展開のための内部留保を確保しつつ、安定した配当を継続的に実施していくことを基本方針としております。

内部留保金につきましては、アニメーション業界のグローバル・リーディングカンパニーになるべく製作プロダクションとして製作体制の充実を図るとともに、成長が期待されるビジネス機会に積極的に投資いたします。

配当につきましては、1株あたり年間30円をベースに、連結業績に応じて配当性向25%程度を基本といたします。また、期末配当の年1回を基本的な方針としております。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(会計方針の変更)

当社及び国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」（実務対応報告第32号 平成28年6月17日）を当第1四半期連結会計期間に適用し、平成28年4月1日以後に取得する建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。

なお、当第1四半期連結累計期間において、四半期連結財務諸表への影響額はありません。

## 3. 四半期連結財務諸表

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成28年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	19,624,788	18,806,000
受取手形及び売掛金	6,327,244	7,074,188
商品及び製品	205,733	183,539
仕掛品	1,176,515	1,748,761
原材料及び貯蔵品	68,818	58,783
その他	4,343,501	4,040,929
貸倒引当金	△151,126	△39,243
流動資産合計	31,595,475	31,872,960
固定資産		
有形固定資産	5,270,183	5,290,022
無形固定資産	214,623	205,147
投資その他の資産		
投資有価証券	10,414,297	9,867,725
その他	8,950,609	8,851,453
貸倒引当金	△41,133	△134,809
投資その他の資産合計	19,323,774	18,584,369
固定資産合計	24,808,580	24,079,539
資産合計	56,404,056	55,952,500
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	5,971,780	6,654,078
未払法人税等	1,927,360	873,823
賞与引当金	260,039	131,236
その他	1,340,599	1,790,484
流動負債合計	9,499,780	9,449,622
固定負債		
役員退職慰労引当金	120,020	89,620
退職給付に係る負債	1,085,369	1,413,968
その他	331,092	318,287
固定負債合計	1,536,482	1,821,875
負債合計	11,036,262	11,271,498
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	2,867,575	2,867,575
資本剰余金	3,409,575	3,409,575
利益剰余金	38,134,806	38,394,456
自己株式	△543,591	△543,591
株主資本合計	43,868,364	44,128,014
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,100,656	430,381
為替換算調整勘定	398,772	122,606
その他の包括利益累計額合計	1,499,428	552,987
純資産合計	45,367,793	44,681,001
負債純資産合計	56,404,056	55,952,500

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)
売上高	7,999,774	9,154,137
売上原価	5,135,776	5,929,295
売上総利益	2,863,998	3,224,841
販売費及び一般管理費	1,261,198	1,433,709
営業利益	1,602,799	1,791,132
営業外収益		
受取利息	15,758	15,073
受取配当金	117,981	115,980
持分法による投資利益	27,363	33,029
その他	20,786	25,193
営業外収益合計	181,889	189,277
営業外費用		
為替差損	11,753	81,856
その他	3,430	1,514
営業外費用合計	15,184	83,370
経常利益	1,769,504	1,897,038
特別利益		
投資有価証券売却益	—	260,606
特別利益合計	—	260,606
特別損失		
建物解体費用	220,000	—
特別損失合計	220,000	—
税金等調整前四半期純利益	1,549,504	2,157,644
法人税、住民税及び事業税	298,629	584,678
法人税等調整額	177,523	17,320
法人税等合計	476,152	601,998
四半期純利益	1,073,352	1,555,645
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,073,352	1,555,645

四半期連結包括利益計算書  
第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)
四半期純利益	1,073,352	1,555,645
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	66,195	△637,207
為替換算調整勘定	△66,333	△276,166
持分法適用会社に対する持分相当額	7,290	△33,068
その他の包括利益合計	7,152	△946,441
四半期包括利益	1,080,504	609,204
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,080,504	609,204
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—



(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当第1四半期連結累計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日)

該当事項はありません。